

『常陸国酒 笠間爛器・半右衛門』の 開発支援

支援先

茨城県中小企業団体中央会
笠間焼協同組合、県内蔵元 3 社

【開発の背景】

東日本大震災や原発事故の風評被害の影響で落ち込んだ茨城県の観光関連産業の復興を図るために関係機関が連携した「茨城観光産業復興連携プロジェクト」を茨城県中小企業団体中央会が実施しています。

その中で地域資源や伝統工芸品を活用した“いばらきならではの新しい土産品”を開発することになり、県内蔵元と笠間焼とのコラボ商品として「笠間爛器」の開発を行いました。



図 1 試作品の試験

【開発の経緯・支援内容】

開発に当たりお酒本来の香味が楽しめて体にやさしい「温めて飲むアルコール」である、お爛酒の文化を茨城から発信するため、ぬる爛の酒器としました。茨城の蔵元と笠間焼協同組合とが連携して、当所が試作開発を支援しました。爛器の名称には笠間焼の源となった「半右衛門」の名を冠した「笠間爛器・半右衛門」としました。試作開発ではぬる爛の最適条件を得るための形状・容量を試験して決定しました。ぬる爛の機能として酒容量は1合として熱湯を爛器に入れてから3分後に38℃以上となることとしました。また、釉薬は笠間の伝統的な釉薬を使い“和”にマッチした彩色としました。



図 2 開発したぬる爛セット

【開発した製品の紹介】

開発した商品は「いばらきの至福のお持ちかえりてみやげ」として、茨城マルシェにおいて完成披露会で発表しました。

その後、限定 75 セットとして販売し好評のうちに完売しました。今年度も伝統工芸士が一つ一つ心を込めて手作りの逸品として制作数を限定し販売します。

笠間焼の手作りの良さと風合いが特徴の笠間爛器で、ぬる爛でおいしいお酒の飲み方とともに県内のお酒のPRにもつなげていきます。

- 価格：地酒とセット 5,000 円 爛器 3,800 円
- 販売先：笠間焼協同組合及び各蔵元
- 記事掲載：茨城新聞 3 回、茨城放送) 1 回
- いばらきデザインセレクション 2013 に選定



図 3 笠間浪漫での試飲会

基礎となった事業

平成 24 年度 試験研究指導費（技術相談）

現在の担当部門

材料技術部門	所 長	鴨志田 武	TEL:0296-72-0316
工芸技術部門	嘱 託	佐藤 剛	